

2024年3月29日(金)

セミナー他 | セミナー他
12:00 ~ 13:00 | B会場 萩
[GW1] 学会主催ランチョンセミナー

12:00 ~ 12:20

[GW1-01] はじめに

○横井 翔¹ (1. 農研機構・生物研)

12:20 ~ 12:40

[GW1-02] 海外で昆虫サンプルを取得・移転するときの対応-生物多様性条約/名古屋議定書/ABSの話-

○鈴木 睦昭¹ (1. 国立遺伝学研究所)

12:40 ~ 13:00

[GW1-03] 名古屋大学におけるABS対応と事例

○石川 綾子¹ (1. 名古屋大学)

セミナー他 | セミナー他

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 | B会場 萩

[GW1] 学会主催ランチョンセミナー

12:00 ~ 12:20

[GW1-01] はじめに

○横井 翔¹ (1. 農研機構・生物研)

12:20 ~ 12:40

[GW1-02] 海外で昆虫サンプルを取得・移転するときの対応-生物多様性条約/名古屋議定書/ABSの話-

○鈴木 睦昭¹ (1. 国立遺伝学研究所)

12:40 ~ 13:00

[GW1-03] 名古屋大学におけるABS対応と事例

○石川 綾子¹ (1. 名古屋大学)

セミナー他

[GW1] 学会主催ランチョンセミナー

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 B会場 (菽)

12:00 ~ 12:20

[GW1-01]はじめに

○横井 翔¹ (1. 農研機構・生物研)

海外の遺伝資源を扱う上で ABS対応は避けて通れない問題である。

今年度も学会主催のもと ABSの専門家をお招きし、ABS対応の基礎から最新の情報までお話しいただく。特に最近「デジタル配列情報」(Digital Sequence Information: DSI)、いわゆる DNAシーケンス配列を含む)まで、ABS対応の範疇に含むかが本領域の重要になっている。本件についても最新の情報をご講演いただくと同時に、ABSの専門家と参加者の研究者との意見交換ができればと考える。

セミナー他

[GW1] 学会主催ランチオンセミナー

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 B会場 (萩)

12:20 ~ 12:40

[GW1-02] 海外で昆虫サンプルを取得・移転するときの対応-生物多様性条約/名古屋議定書/ABSの話-

○鈴木 睦昭¹ (1. 国立遺伝学研究所)

海外で昆虫などの遺伝資源を取得したり、国外に移転するときには、それぞれの国の関連法規やルールを守り、必要な手続きを行い、許可を得る必要がある。これらの法令や手続きが必要になった背景には、生物多様性条約(Convention on Biodiversity : CBD)において決定された (Access and Benefit-sharing: ABSや、名古屋議定書の発効(2014)が背景となっている。ABSに対応するために研究の遅延が生じやすいが、遺伝資源提供国の法令を遵守することは避けて通れない。提供国の法規制遵守や、日本国内でのABS指針の遵守、関連条約法令の対応が必要である。本講演では、各国の法規制の整備状況を紹介するとともに、エクアドル、インド、インドネシア、マレーシア・サバ州でのトラブル事例や対応方法を紹介する。ABS対応は、各国の法令が異なる、対応方法が不明瞭である、提供国の対応が遅く時間がかかるなどの課題がある、そのため、その対応には研究現場からの意見がとても重要である。今回、ABSに関する情報提供を行うとともに、皆様の意見をお聞きしたい。

セミナー他

[GW1] 学会主催ランチョンセミナー

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 B会場 (萩)

12:40 ~ 13:00

[GW1-03]名古屋大学における ABS対応と事例

○石川 綾子¹ (1. 名古屋大学)

生物多様性条約（CBD）及び名古屋議定書では、研究者が海外生物サンプル等を利用し、現地において採取等を行う際には、相手国の ABS関連法規に従って許可の取得（PIC）や契約の締結（MAT）、提供国への利益配分（ABS）を行う必要がある。また、日本の ABS指針に従い環境省への報告手続き等が必要な場合もある。名古屋大学では、平成29年度に、ABSの体制構築を行い、チェックフロー等を定めて運用を行ってきた。講演者は名古屋大学の ABS実務者チームメンバー（URA）として、教職員から、国際的共同研究やプロジェクトでの相談対応として契約締結・PIC取得のための支援を行い、具体的ケースの ABS対応の支援を行う者である。本セミナーでは、名古屋大学での ABS対応のための体制構築時の検討事項について紹介する。また、相談対応での事例のうち、いくつかの実際の対応状況を紹介する。研究の現場での ABS対応において、実際的な課題や困難な点についても皆様と共有しながら議論をできればと考える。